

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なないろStudy2nd(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 10日		令和7年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 10日		令和7年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別の支援内容の充実化。	モニタリングや送迎時の申し送りの時に保護者の要望を聞き取り、また学校で受けている支援や、発達検査の結果からこちらでできる支援内容を考えて実施している。	支援内容の見直し・改善を繰り返し行い、今後もより良い支援を提供していけるように日々研鑽してまいります。
2	施設の清潔な環境。	毎日の清掃、療育に必要なものは指導室に置かないようにしている。 学習後の利用者と一緒に机上の環境を整えるようにしている。	心地よく学習に取り組めるように、これからも環境を整えていけるよう心掛けていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学習がメインになるため、児童発達支援の利用者が少ないこと。	療育内容がわかりやすいように療育時間に見学に来ていただいているが、利用者のほとんどが小学生であることや、ビジョントレーニングの課題が少し児童発達支援の利用者にとって難しいように感じるため。	児童発達支援の利用者がいる時間帯に見学に来ていただくこと。 身体に合った机や椅子、踏み台を利用していること、年齢に合った学習課題を実際にお見せする。
2	災害時の避難方法、訓練の実施や各種マニュアルの周知不足。	定期的の実施し、SNSで様子を更新しているが、いつ・どのように行われているか、保護者の方に伝わっていないこと。	実施時に利用していた利用者にはその時の様子を文章や写真で個別でお伝えする。 これまで通り、SNSで訓練を実施したことを公表する。
3	同年代と関わる機会が少ないこと。	基本は学習療育のため他児と関わることは少ないが、上記にもあるが児童発達支援の利用者が少ないため、より同年代の利用者との関わりが少なくなっている。	出来る範囲で同年代の利用者と同じ時間に利用できるように予定を組むようにする。